

2017年5月21日(日)朝10:10
5月第3共同主日礼拝式説教

主の復活節第6、消防訓練等
日本アライアンス庄原基督教会

説教題：第7のラツパ;殉教者の幸福

聖書:ヨハネの黙示録 14章13節

＜口語訳＞

新約聖書400頁

ヨハネの黙示録 14章13節

＜新共同訳＞

新約聖書468頁

ヨハネの黙示録 14章13節

＜新改訳第3版＞

新約聖書492頁

ヨハネの黙示録14章13節

＜塚本訳＞

新約聖書807頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」とありますように、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通して(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録されたものと理解されています。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、神の御子の再臨信仰と神の御子の愛、2章～3章は、7つの教会への手紙、4～5章は、仔羊(羔羊)礼拝と大讚美、6～9章は、聖徒の戦い、10章は、神の恵みの啓示と審判、11章は、主の王即位と24人の長老の神礼拝、12章は、女性及び天使と龍(悪魔・サタン)との戦い、13章は、龍(悪魔・サタン)礼拝を求める第一の獣、第二の獣との戦い、14章1～5節は、天での小羊なる主への大讚美、6～7節は、神の福音と地上の諸国への裁き宣告、8節は、バビロン倒壊の宣告、9～12節は、神無視の人々への裁きと信仰者への忍耐の求めの箇所です。
- ◇ヨハネの黙示録14章13節は、主にある死人の幸福告知の天の声と内住の御霊の声。

本論；

◇本日、ヨハネ黙示録第14章13節から主の使信に思い・心をとめます。

◆黙示録14章13節a；ヨハネは、主にある死人の幸福告知の天の声を聞きました。

◇13節；塚本訳◆殉教者の幸福{第五の異象}

「13 また私は天から声が(こう)言うのを聞いた、「書け、『今から後主にあって死ぬる死人は幸福である。』」御霊も言い給う、「然り、彼らはその労苦を休息む(ことが出来る)であろう。その(為した)業が彼らに随いて行くのであるから！」と。」と、ヨハネは、天の声と内住の御霊の声を聞きました。

◇13節a；ヨハネは、天から声が「今から後主にあって死ぬる死人は幸福である」と、「書け」というのを聞きました。

⇒「神の憤怒の葡萄酒を飲む」との「天から声」を聞かされた「獣とその像とを拝む者」への告知、「(永遠に)火と硫黄で苦しめられる」事態と比べても、「今から後主にあって死ぬる死人は幸福である」の告知は、慰めです。

- ⇒残虐非道な皇帝ネロのもと、パウロやペテロ、ヨハネの兄弟ヤコブらが殉教しましたが、**ヨハネ**をパトモス島に幽閉した「**ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)**」も、皇帝礼拝を求めるなどの厳しい迫害者でした。
- ⇒「**主にあって死ぬる死人**」という表現自体に殉教者という意味合いはありません。
- ⇒**ヨハネの時代の殉教者多発**の状況から「**主にあって死ぬる死人**」を殉教者と、多くの人々は理解してきたのです。
- ⇒**皇帝礼拝**を拒んだ人々は、「**殉教**」の道を選択させられたのです。
- ⇒「**龍(悪魔・サタン)礼拝**」を強要されて、苦痛を味わわされた「**神礼拝者**」の戦いも、「**今から後主にあって死ぬる死人は幸福である**」との「**天から声**」の主の思いに通じています。
- ⇒「**天から声の主**」は、**死人を甦らせる全能者**ですが、私たち人間は、「**復活信仰**」を与えられ、「**復活のいのち**」に生かされている者であっても、死に直面すると、恐怖を感じます。

◆ 黙示録14章13節b;ヨハネは、主にある死人の労苦からの休息解放とその労苦の働きが、**ついて行くとの内住の御霊の声を**聞きました。

◇ 13節;塚本訳 ◆ **殉教者の幸福{第五の異象}**

「13 また私は天から声が(こう)言うのを聞いた、「書け、『今から後主にあって死ぬる死人は幸福である。』」御霊も言い給う、「然り、彼らはその労苦を休息む(ことが出来る)であろう。その(為した)業が彼らに随いて行くのであるから！」と。」と、ヨハネは、**天の声と内住の御霊の声を**聞きました。

◇ 13節b;ヨハネは、**内住の御霊の声**が「**彼らはその労苦を休息む(ことが出来る)**」、「**その(為した)業が彼らに随いて行く**」というのを聞きました。

⇒「**彼らはその労苦を休息む(ことが出来る)**」は、**殉教よる死**に肉体をもって労苦を強いられたことに対しての**御霊の慰め**のことばです。

⇒これも、**死人を甦らせる全能の御霊の確信**に満ちた**使信**です。

⇒ヨハネには、**大きな慰め**のことばでした。

- ⇒ **神の御霊**は、「**その(為した)業が彼らに随いて行く**」と告げ、「**殉教の死**」で、地上の**神信仰の戦い**が失われないことを告げて下さった。
- ⇒ 私たちは、愛する者の「**死**」で、その人の凡てを失ったと思い込みますが、**霊においてなお生きています者**ですから、何一つ失われていないことに、**神の御霊の声**は気づかせて下さるのです。
- ⇒ **死人からの復活**と時という意味では、「**休息**」の中にありますが、「**神礼拝**」という意味では、「**24人の長老たち、4つの生き物、144,000人の殉教者ら**」と、**天では神礼拝し、地上に残された者のために、地上にてなされたように、今も執成しの祈りをささげておられます**。「**その(為した)業が彼らに随いて行く**」とは、まさに**神礼拝**であり、**執成しの祈り**です。
- ⇒ 私たちは、現実の中に生きていますので、遺骨を前にして絶望的になることは回避できませんが、「**天から声・聖書のことば**」を日々聴き、「**内住の御霊の声**」に忠実であることを通して、絶望的な心と生活から立ち上がらせていただけるのです。

結論；

- ◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」とありますように、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通して(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録されたものと理解されています。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、神の御子の再臨信仰と神の御子の愛、2章～3章は、7つの教会への手紙、4～5章は、仔羊(羔羊)礼拝と大讚美、6～9章は、聖徒の戦い、10章は、神の恵みの啓示と審判、11章は、主の王即位と24人の長老の神礼拝、12章は、女性及び天使と龍(悪魔・サタン)との戦い、13章は、龍(悪魔・サタン)礼拝を求める第一の獣、第二の獣との戦い、14章1～5節は、天での小羊なる主への大讚美、6～7節は、神の福音と地上の諸国への裁き宣告、8節は、バビロン倒壊の宣告、9～12節は、神無視の人々への裁きと信仰者への忍耐の求めの箇所です。

◇ヨハネの黙示録14章13節は、主にある死人の幸福告知の天の声と内住の御霊の声です。

⇒「**神の栄光の御座**」での「**24人の長老**」と「**4つの生き物**」の**神礼拝・神讚美**は、「**主キリスト・イエス様が天のみならず、地の上・この世でも、王となり給うたことを感謝**」する結末を与えられています。

⇒地上に今生かされています私たちも、「**神礼拝・神讚美**」は、この幻のように実現することを信じて、「**主がこの世の王となり給うたことを感謝**」すると、告白しています。

⇒「**死**」という最大の苦難を思う前に、「**恵みの約束の神**」に思いを向けたいと、願います。

⇒ヨハネ黙示録は、「**苦難**」先にある「**神の救い**」という「**神の恵み**」を見せ、また指し示します。

⇒「**龍(悪魔・サタン)**」は、「**神のようになる**」目的を放棄していませんで、「**天では**」、「**彼らの(いる)場所が無くなった**」のですが、投げ落とされた地上で、「**神礼拝者・神信仰者**」を「**訴える本務**」を放棄することはしません。

- ⇒**神は、144,000人の殉教者の訴える祈り、を聞き、「獣礼拝者・龍(悪魔・サタン)礼拝者」とその誘惑に負けた人々に「神の怒り」をもって、復讐して下さるのです。**
- ⇒**決して、神の怒りに先立ち、「獣礼拝者・龍(悪魔・サタン)礼拝者」とその誘惑に負けた人々を裁かず、むしろ、その罪・咎に気づけるように執成しをすることが求められています。**
- ⇒**多くの信仰の仲間の殉教を目にして絶望的になっている老使徒ヨハネに「今から後主にあって死ぬる死人は幸福である」、「彼らはその労苦を休息む(ことが出来る)」、「その(為した)業が彼らに随いて行く」と天から声と神の内住の御霊の声が与えられて、大きな慰めを神は与えて下さったのです。**
- ⇒**復活信仰は、HM師の肉体の死に向き合った生き方から見ましたように、現実の苦闘を経験しつつ、確信をもって受けとめて行くものです。**
- ⇒**復活信仰は、「天から声・聖書への傾聴」と「内住の御霊の声に聴く」ことによって、養われるものと、神は今日語っておられます。**